

環境基本計画検討小委員会(第1回)のご意見

1. 計画全般について

- ・ため池、里山、森林を分けて考えるのではなく、それを包括して、グリーンインフラという概念で考えることが今後のテーマかな、という気がした。その中に生物多様性の話も含まれている気がする。
- ・国資料にある「地域循環共生圏形成」については、兵庫県の場合は、日本海側と瀬戸内海側、五国や流域の話など、良いユニットがあるので、上手くまとめていくと結構良い話になるのではないかと。
- ・第4次計画では「低炭素」「自然共生」「循環」「安全・快適」と、「くらし」「しごと」「まち」「さと」というマトリクスを組んで、それを下支えする形で「地域力」があるという構造にしているが、今回の第5次計画の骨格案では、元に戻ってしまっている。低炭素、自然共生、循環、安全・快適の要素型の問題に対して、地域力という別の視点のものが同列に書かれるのは良くないのではないかと。
- ・今年、地球温暖化対策推進計画を策定したが、第5次計画の中でさらに新たな視点を加えて検討していかなければならない、という考え方なのか。
- ・「SDGsの考え方の活用」と簡単に表現しているが、具体的には非常に難しい。どの考え方のどの部分をどう第5次計画の中で活用していくのか、という部分を具体的にした方が良いのでは。
- ・統合的視点や俯瞰的にものを見て未来を描く力など、基本的な能力をどう教育と連動しながら作っていくのかを抜きに、ESDも県の環境学習活動もSDGsも、なかなか読み解いていけない。本質的なところで目指すべきところをよく整理しないと、世界的な流れだからとSDGsを出していても、ついていけないものが出てくる。課題トータル的なところでSDGsをどう見せるかということを考えないと、SDGsが前面に出してしまうと、ちょっと違和感がある。
- ・資料5「2 県内外の社会経済の状況」で、「環境分野においても、効率化や高速化、省人化等による課題解決が期待されている」と書かれているが、ここまで言えるのか。ちょっと踏み込みすぎという気がする。
- ・「地域力」は、今までは課題としての認識もあったが、むしろ、それを作ることがトータルな課題解決の一番の底辺である。その中で、敢えて国際的な視点も入れていく努力をしないといけない。
- ・県計画を作るときには、市町計画も吸い上げて、市町の実績を踏まえた県政評価が出来るようにすることが重要である。
- ・県の審議会に市の担当者に来ていただいて、各市の計画をどういう視点で作っているのか紹介いただくような機会をいただけたらありがたい。

2. 各分野の取組について

<「野生鳥獣の適正な保護・管理」について>

- ・野生動物は、山で餌を探すよりも、里で農作物を食べた方が楽と学習しており、里での活動を防げていない、つまり里の対応力がないことが、被害を深刻化させている要因である。野生動物の管理・自然との共生を考える上で、都市部を守るという観点からも、中山間地域の里をどう守るかという方向で、今後の施策を考えて強化していただきたい。
- ・現在、紙ベースで行っている自然環境の情報(データ)収集について、ICTを活用するなど効率化を図る必要がある。

<「里地・里山の保全・再生」について>

- ・人口減少により山の担い手がなくなった状況で、山の恩恵が減っていくことに関しては、受益者負担という視点が大事で、その恩恵を維持したいのであれば、従来のただ乗りはやめて、支払いが必要だという方向を打ち出す必要があるのではないか。
- ・受益者負担するとしたら、どの程度まで負担できるのかを見定めて、森林が存在することによる様々な環境サービスを復活させるためにどこまで持ち直すのが適正なのか、考えなくてはいけない。

3. 指標の設定・進捗管理について

- ・指標として出てくる数字は、経済が成長期にあるのか低迷期にあるのか、その動きにも左右され、単純に考えると経済発展がダメという議論にも成りかねない。環境と経済と社会の統合という概念もあるので、指標を個々で見たとときの評価と、トータルで見たとときにバランス良く成長しているかどうかという評価の2段階で見ないといけないのではないか。
- ・単純に廃棄物の総排出量を指標にしてしまうと、業種毎の増減が平準化されてしまい、あまり意味がない。本当は、原単位という考え方が合理的だと思うが、全ての業種を1つずつ評価していく必要があり、難しい。もう少し考えてみたい。
- ・海域の環境基準達成状況や藻場面積に関して、評価の付け方に違和感があり、目標の設定と評価がちぐはぐになっているのではないか。表記の問題もある。
- ・指標や進捗管理の議論では、現況分析と施策評価を分けて、目標の設定をした方が良いのではないのか。